

改訂版の序

2020年初頭、COVID-19狂想曲のなかでこの序を書いている。狂想曲、とはいささか不穏当で適切でない物言いかもしれない。しかし、連日テレビやネットを賑わす報道やSNSは、何となく騒ぎたいから騒いでいる、この問題を騒げば盛り上がる、的な空気の存在を感じるのは筆者だけではないはずだ。

人類の生存は常に感染危機との戦いである。狩猟・移動をやめて定住化・農耕をはじめて以来、感染症アウトブレイクの危険性が増えた。そして近代、定住化に加えて容易すぎる移動を手にした人類には、新興感染症パンデミックの勃興というさらなる生存の危機が訪れている。重要なことは、危機は危機として正確に情報を把握し、冷静かつ理性的に対処することだ。

現時点でCOVID-19に対する特異的治療はない。巷でささやかれる“効くかもしれない特効薬”も、どこまでの効果と副作用があるかまだわからない。手洗いと咳エチケットを励行し、具合が悪ければ外出を控え移動や集会を避け、十分な休息と水分・栄養をとりよく眠ること、医療従事者においては、現場で標準予防策と感染経路別予防策を確実に励行すること、これが一般対応のすべてである。これだけである。

呼吸管理も同様だ。患者予後を劇的に改善する呼吸管理など存在しない。一方でその誤用は、かえって患者予後を悪化させる方向に容易に働く。そして残念ながら、呼吸管理という複雑系を完璧に適用することは難しい。われわれにできることは、その困難性を克服すべく、日々コツコツと精進することに尽きる。生理学をよく理解し、正しく病態を評価診断し、できるだけ侵襲性の少ない基本的な管理を、時機を逸することなく提供することだ。

基本をやり続けるしかないのだ。

この小さな資料が、現場での基本の確認と遂行に少しでも寄与できればありがたい。

2020年2月

今年初めての湖北の雪景色を車窓の左手に

志馬伸朗

編者注：上の序文を書いたのち発刊までに半年以上が過ぎた。コロナ禍は拡大し状況は大きく変わったが、考えていたことに間違いはなかったことにやや安堵し、同じ序とすることにした。